

## 地域福祉活動計画策定委員会 第5回委員会 会議録

1. 日時 平成26年6月3日(火) 13:30-15:30
2. 場所 小諸市保健センター 集団指導室
3. 参加委員等(14名)  
中村委員長(途中出席)、山本副委員長、小川委員、坂本委員、相良委員、竹中委員、田中委員、  
中山委員、西川委員、牧野委員、三島委員、村上委員、望月委員、小林アドバイザー  
欠席委員等(3名)  
福島委員、松本委員、上野谷相談役
4. 内容
  - (1) 開会
  - (2) ここまで振り返りと今回の目的の確認…事務局より説明。
  - (3) 報告事項
    - ① 情報公開の状況…P2～9を基に情報公開の状況を確認。
  - (4) 会議事項
    - ① 活動計画全体像について…P10を基に内容を確認。事務局案を承認する。
    - ② 本日の分科会について…P10を基に内容を確認。
  - (5) 分科会…4分科会に分かれ、資料を基に意見交換。
  - (6) 会議事項
    - ① 各分科会の報告…各分会より本日の取り組みを報告。
  - (7) その他
  - (8) 次回会議(第6回)…平成26年8月5日(火)13:30～人権センターにて開催とする。
  - (9) 閉会

## 議事要点

### 1. 開会

(副委員長) 委員長、所用のため途中からの参加となるため、策定委員会規程に基づき議長を代理する。

### 2. ここまでの振り返りと今回の目的の確認

(副委員長) 事務局より説明を。

(事務局) 昨年9月18日に第1回策定委員会があり、計画の方向性について確認いただいた。11月19日の第2回策定委員会では、住民・団体意見交換会について確認いただいた。1月21日の第3回策定委員会では住民アンケートについて議論いただいた。4月8日に第4回策定委員会では、ここまでに集められた意見を基に計画に取り上げるキーワードについて分科会に分かれ議論いただいた。

本日は活動計画の中身の枠組みについて事務局案を提示する。一般的な計画書と比べるとユニークな視点からの提案となっている。方向性から議論をいただきたい。

### 3. 報告事項

#### (1) 情報公開の状況

(副委員長) 事務局より報告を。

(事務局) 2ページから4月11日のコミュニティテレビこもろでの報道の様子と4月18日の小諸新聞、4月19日の東信ジャーナルの掲載記事となっている。4ページ以降は社協のホームページへの掲載状況である。本日もコミュニティテレビこもろに同席いただいている。

### 4. 会議事項

#### (1) 活動計画の全体像について

(副委員長) 事務局より提案を。

(事務局) 活動計画書の中身の構成について10ページならびに別添資料を基に提案する。

各委員の机には本活動計画策定にあたり参考とした他市町村の地域福祉活動計画書を配布した。どの市町村の計画も市民に分かりやすくするための工夫が伺える。これらの計画書のように、一般的には理念があり課題があり対策が記されている。計画策定の経過や計画の根拠を明確にするためには同様の構成が必要と言える。

これらを参考にしつつ、事務局では活動計画書の中身の構成について検討した。その結果、いくら優れた内容の計画であっても市民が手に取らなければ「絵に描いた餅」であるとの結論に至った。

そこで、多くの方が手に取りたくなるような活動計画とするための帳票を作成したので提案したい。

この帳票は【手に取りやすいこと】・【住民一人一人が自分の行動を考えるきっかけとなること】をキーワードとして、具体的な相談事例を基に地域の支え合いを考えていくことを目的としている。

資料①-2に具体例を記したので、そちらを基に事務局の狙いを提案する。

左上の黒塗り白抜き部分をページタイトルとする。

活動計画書の目次には、このページタイトルが並ぶ。10個ほどの事例を用意したい。活動計画書を手に取っていただいた方は、興味のあるページを見つけ出して読み進めることが可能となる。

その下の枠組みには、相談事例内容を記す。この部分を読むことにより、具体的な相談内容が把握できる。

まずは、ここまでの内容を本日の分科会で検討願いたい。

【地域の方からの声】には、ここまでに集められた情報を記す。意見交換会やアンケートから集められた地域の声、住民の思いを記すことにより、この相談を取り巻く地域の状況を伝えたい。

【ここがポイント！】は、現状や将来像、関連する社会資源の状況や連携の可能性等を分かりやすく表現したい。

【こんな小諸にしたい！】は相談事例に関連して、「こんな小諸にしたい！」という策定委員の思いを盛り込みたい。この部分についても本日の分科会で検討をお願いしたい。

【社会福祉協議会「やります」宣言！】は、「こんな小諸にしたい！」という思いを具体化するために社会福祉協議会がこの5年間でやること、そして5年後の姿を盛り込みたい。

【私にもできそうなこと】は、「一人一人が自分の行動を考えるきっかけ」になることを目的として、空欄としてある。

このような相談事例が10あれば、10か所の【私にもできそうなこと】欄があるが、住民一人一人が全ての空欄を埋める必要はない。興味のある部分のみ、1つでも良いので考えるきっかけとなれば十分であると考えている。

この計画書が小中学校の福祉学習、区長会や民生児童委員協議会、当事者団体や支援団体、公民館での集まりなどの際の支え合いに関する話し合いの材料となることを期待している。様々な場面で様々な方々がこの計画書を手に取り、一つでも良いので【私にもできそうなこと】を考えることができれば、絵に描いた餅とならない活動計画書になるのではないかと事務局は考えている。

(副委員長) 事務局案を基に活動計画の中身について意見交換したい。

(委員) 事務局案は、計画書を手に取った方が考えるきっかけとなる構成だと思う。実際の事例を共有することで、支え合いについて区全体で考えるきっかけとなれば良い。事務局例示の内容は民生児童委員が気にかけている内容であり、このような身近な事例がわかりやすく表現されていると手に取りやすい。

(委員) 10個程度の事例という分量は適切。「こんな小諸にしたい」という表現は多くの場で聞こえてくる。本委員会としての表現を心がけたい。

(委員) 地域の支え合いは行政や社会福祉協議会の取り組みだけでは不十分。住民の「自助・互助」が重要である。事務局案は新しい取り組みであり面白い視点である。評価の仕組みもここに加えられると良い。支え合い意識の変化など、数値化しにくいものもあるので、評価の手法を検討していきたい。

(委員) とてもユニークな帳票だと感じている。子どもや高齢者が見やすく、手に取りやすいと言える。全体の構成としては、冒頭に活動計画の目指す方向性を示した上で、事例を列記すべきだと考える。

(委員) 市民を巻き込む手法として面白い帳票になっている。具体的に市民を巻き込む方法を計画に盛り込み、実効性のある計画書としたい。

(委員) 事務局案の帳票に否定するところはないが、活動計画全体のイメージがわからない。全体像ならびに、具体的な活用方法を検討する必要がある。

(委員) わかりやすい枠組みだと思う。【私にもできそうなこと】が市民一人一人の身の丈にあった支え合いにつながれば良い。【私にも】の表現が【私たちにも】となると、家族や隣近所で支え合いを考えるきっかけになる。

(委員) 一般の人は福祉への関心が低い。活動計画書を手に取っていただくには興味をひくために視覚的な工夫(イラストや漫画など)が必要。

(委員) この計画書を持ち寄り、民生児童委員、区役員、公民館役員、PTA、子どもたちが集まり、【私にもできそうなこと】を考えられると良い。

(委員) この帳票は、堅苦しくなく誰が見てもわかりやすくいい。障がい当事者や支援者からすると、【私にも～】より【私たちにも～】のほうが考えやすい。

(副委員長) 【社会福祉協議会のやります宣言】は面白い。事務局案に対する反対意見は聞かれていないので、これを基本として計画書を作成していく。ただし、計画の全体像や、市民

を巻き込む具体的な方法、表現の修正等、出された意見をふまえて、次回委員会に事務局より修正案の提示をしてほしい。

## (2) 本日の分科会について

(副委員長) 事務局より説明を。

(事務局) 本日の分科会は、二つの意見交換を予定している。一つ目は前回の分科会で出されたキーワードを確認し、事例を出し合いたい。二つ目は【こんな小諸にしたい!】の思いを出し合いたい。委員から発言いただいたように【こんな小諸にしたい】という表現は多くの場所で使われる。ここでは、【こんな小諸の支え合いにしたい】という視点でお願いしたい。今回出された意見を事務局で事例としてまとめ、10 程度の事例に絞って次回委員会に提示したい。

## 5. 分科会…4 分科会に分かれ実施。

## 6. 会議事項

### (1) 分科会の報告

(第1分科会長) 地域でのつながりを考える分科会

キーワード：世代間のつながり

【実際の事例】2月の大雪の際、PTA 役員が率先して雪かきを始めたところ、次第に子供や保護者を含めた地域の方が集まり、多くの方の力を合わせて雪かきに取り組むことができた。

【こんな小諸にしたい】地域の中でPTA が力を発揮して、世代間のつながりを広げたい。

キーワード：住民主導の支え合い

【実際の事例】区内の支え合いに関して、区の役員だけではなく民生委員等も加わり情報交換できる仕組みができつつある区がある。また、区内ボランティアによる寺子屋を始めているところもある。

【こんな小諸にしたい】楽しみ・やりの要素を取り入れた支え合い体制を区の中で作っていききたい。

キーワード：高齢者の力の活用

【実際の事例】高齢者は、子育て世代がぶつかってしまう壁も、壁だと思わないほどの経験と知恵を持っている。藁鉄砲など昔からの伝統文化の継承が高齢者の力でできている。

【こんな小諸にしたい】高齢者の方々には知恵袋として、支え合いにかかわってもらいたい。

キーワード：お互いに顔が見えると支え合える

【実際の事例】大雪の時に交通手段がない中で緊急受診をしなければいけなかったが、近所の方の力で受診できた。

【こんな小諸にしたい】お互いに助け合える、留守にするときは声を掛け合える小諸市にしたい。

キーワード：必要な情報の共有

【実際の事例】一人暮らしの方の安否確認のために、玄関先にわかるよう黄色いハンカチを出している地区がある。

【こんな小諸にしたい】小諸市から孤独死をなくしていききたい。

キーワード：支え合い活動の財源

【実際の事例】区として有償ボランティアに取り組み、財源を確保しているところもある。

【こんな小諸にしたい】支え合いに効果的な取り組みを共有できる小諸にしたい。

(第2分科会長) 生きがい・やりがいを応援する分科会

キーワード：生きがい・やりがいに関する情報発信の拠点

【実際の事例】①活動する場②活動の機会③活動を支える組織があることが大切。参加する方がやってよかったと感じるはず。様々な特技を持っている人がいるが、特技を生かした活動の場があれば生きがいを感じるだろう。

【こんな小諸にしたい】「何かやりたいけれど何をやったらいいかわからない」と考える人に向けて小諸市らしい情報発信の方法を見つけない。

キーワード：地域にある福祉力の発掘

【実際の事例】災害時でない平常時の支え合いがなかなか出来ていない。ほとんどの区が支え合いマップを作っているが、作っただけで終わってしまっている。毎年見直し作業を行うことで、支え合い体制が充実していく。

【こんな小諸にしたい】区を中心とした支え合い体制充実のために、区長を中心とした組織を作っていく、その中で人材を見つけていきたい。

キーワード：各種団体への支援と連携

【実際の事例】似たような活動をしている団体が連携することで、効率的に活動ができる。各種団体への金銭面での支援も必要だと思うが、活動のやりがいがある組織を作ることも大切。高齢者クラブを区の組織として組み込んでいっているところもある。

【こんな小諸にしたい】地域にある様々な団体が連携している小諸にしたい。

(第3分科会長)皆で支え合うために必要なことを考える分科会

キーワード：子ども・子育て世代への支援

【実際の事例】朝ご飯を食べてこないなど、家庭の養育機能に課題のある子がいる。

【こんな小諸にしたい】差別・区別がなく子供たちが育つ小諸にしたい。

キーワード：小中学校での福祉学習

【実際の事例】養護学校と地元校との交流、PTAの活動で発達障害に関する勉強会を始めているところがある。

【こんな小諸にしたい】違いを認め合える小諸にしたい。

キーワード：障がいの理解

【実際の事例】障がいへの理解の不足があり、地域の中で障がい者が生活しにくい。

【こんな小諸にしたい】障がいについて話しあえる小諸にしたい。

キーワード：障がい者支援の充実

【実際の事例】障がいがあってもなくても受け入れてもらえる。

【こんな小諸にしたい】親亡き後の支援の充実が必要。地域のお祭りなどに障がいがあってもなくても一緒に参加できる小諸にしたい。

(第4分科会事務局)支え合いの土台作りを考える分科会

キーワード：担当者の顔が見える社会福祉協議会

【実際の事例】地区担当制で職員を割り振っているが、なかなか顔が見える関係になっていない。また、働く世代は、そもそも社会福祉協議会と接点がない。

【こんな小諸にしたい】地区担当者が接点のある方にはきちんと顔を見せていく。若い方に関してはHP等の情報の発信の仕方、内容もやり取りができるような形にしていく。

キーワード：支え合いの意識の底上げと支え合いを続けていくための組織作り

【実際の事例】高齢化率50%を超えている区も出ており、そういったところの支え合いは区だけでは解決することができない。

【こんな小諸にしたい】ひとつの区でできないことは区を超えて応援しあう体制を作りたい。

キーワード：地域福祉推進役としての社会福祉協議会（関係機関との連携）

【実際の事例】社会福祉協議会が地域福祉・支え合いを引っ張っていくべきだが、何をしているのか見えない。

【こんな小諸にしたい】社協が明確な方針を示し、地域の方々に「こういう小諸を作っていきたいから一緒にやってみましょう」という情報発信をしてほしい。

キーワード：何でも相談できる社会福祉協議会

【実際の事例】相談できるスペースが限られていて、防音処理もされていないため、環境的に相談しづらい。また、何を相談したらいいかわからない。

【こんな小諸にしたい】社会福祉協議会は安心して相談できる環境を作っていく必要がある。また、きちんと相談を受け止め、必要な機関につなぐ総合相談窓口としての社会福祉協議会の存在をPRしていくべきだろう。

キーワード：活動計画の進め方

【こんな小諸にしたい】活動計画の中身のうち、社会福祉協議会に関するものは社協の事業報告で評価が可能。市民の支え合いの意識などはアンケート調査を継続的に行うべき。行政実施のアンケートの一部に「支え合い」を盛り込んで市全体で意識を共有したい。

（副委員長）各分科会の報告を元に事務局でとりまとめをお願いしたい。

## 7. その他

（副委員長）アドバイザーよりコメントを頂きたい。

（アドバイザー）各分科会で出されたものを振り返ってみると、以下の4点となる。

- ① 経験値を生かそう：高齢者やPTA等の団体の力、地域の福祉力の活用。
- ② いつまでも続けるために：人が入れ替わっても活動が継続するための仕組みが必要。
- ③ 活動の場がたくさんあると、生きがい・やりがいが増える：多様な活動の場が必要。自分に合った出番があってこそ、生きがい・やりがいは生まれてくる。
- ④ 靴に足を合わせるのではなく、足に靴を合わせる：枠組みありきではなく、地域の具体的なニーズに合わせて柔軟に支え合いを考えていく必要がある。

余談ではあるが、以上の4点を頭文字をとると「け・い・か・く」となる。

## 8. 次回会議

（副委員長）事務局案の提示を。

（事務局第）第6回策定委員会を8月5日（火）13:30から小諸市人権センターにて開催したい。

（副委員長）異議なければ事務局案としたいがいかがか。

（委員）異議なし。

（副委員長）予定していた議事は以上。閉会とする。